

実践事例集

事例 No. 9

本事例についてのお問い合わせは

東京スポーツ・レクリエーション専門学校
キャリアデザイン・コミュニケーション科 伊藤

までお願いいたします

団体名 (個人名)	東京スポーツ・レクリエーション専門学校
団体(個人) 所在地	〒134 - 0088 東京都江戸川区西葛西7-13-12
TEL番号	03 - 6663 - 5312
FAX番号	03 - 5605 - 5927
メールアドレス	tadao@tsr.ac.jp
記載者の職・氏名	学科長 伊藤 忠男

○実践のあらまし

私たちの学科では平成21年4月より、不登校経験者やひきこもり経験者を受け入れています。教育目標を「次の進学先で就学可能な生活習慣を身につけさせる」とこと、「将来の職業像を明確にする」という2点に置いています。なかでも「生活習慣の改善」させるためには「友だちづくり」が重要である、という仮説をたて、通常授業の中にアドベンチャープログラムを導入してクラス内の相互支援環境を構築（友だちづくり）をして、登校意欲の向上を図っています。

○実践の内容

1年の導入期に1週間の「コミュニケーション演習」を実施週間を設ける。この期間を利用して通常よりも丁寧にアイスブレイクを入れて、人間関係に対する不安を払拭。その後、5月から始まる通常授業の中で、毎週1コマ（90分）で「コミュニケーション演習」を実施。年間を4期に分けてそれぞれに目標を設置して信頼関係の構築を図る。

第1期・・・自分を知る、助けを求める、居心地の良い環境づくり

第2期・・・相手を受け入れる、多様性や違いを知る、コミュニケーションの大切さを知る。

第3期・・・目標を持つ、居心地の良い環境作りの実践、信頼関係の構築

第4期・・・自己開示、自己イメージ向上、困難への挑戦、チャレンジに対するサポート。

○まとめ

在校生の多くは中学校～高校卒業までをサポート校で過ごした学生が多く、その要因のほとんどが人間関係（友人、先生、親など）に起因する。その学生たちがこのプログラムによって、友だちと会話したり遊んだりといった、通常の生活を取り戻している。一方でこのプログラムでも通常生活を取り戻せない学生がいるのも事実であり、プログラム内容や実施時期、教職員の指導法について分析を行って、よりよい自立支援プログラムを実現していきたい。